

# さんぽみち



連絡先

鶴の木特別出張所

3750-4241

発行 わがまち大田鶴の木地区推進委員会



## はばたけ!わがまちの子どもたち



ピカピカのランドセルを背負った一年生。新しい制服で通学する子どもたち、この微笑ましい姿を見る新学期。今、子どもたちをめぐると況をもう一度冷静に見つめ、家庭に学校に社会に、何が求められているのか、みんな考えてみようではありませんか。編集長 池田 進太郎

輝いている一年生

東調布第三小学校長

吉川 正弘

陽光がまぶしい春四月、東調布第三小学校の平成十年度がスタートいたしました。本校の新一年生は、七十四名の二クラスになります。お子様のご入学おめでとうございませう。

生き生きとした新一年生ひとりひとりの顔に入学の喜びと自覚の思いがあふれ、目を輝かせて学校生活を楽しくていく姿が思い浮かびます。

「子どもは家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる。」といわれています。これからの学校教育の場は、学校の中だけにとどまらず家庭や地域社会との連携を十分に図っていくことが大事と想っております。特に、家庭は親と子を中心とした生活の中で基本的なしつけや自主性を育てる基本的な場です。子どもにとって胸をふくらませ、大きな感動を味わう時期であります。どうか、あせらずにお子様をじっくり見据え、ゆったりとした気持ちで成長を信じていきたいものです。

元気にはばたけ

鶴の木三丁目 安齋 哲

冬季長野オリンピックは直接見に行った人もテレビで観戦の人も、日本の選手や各国選手達の活躍には誰もが感動したことと思います。これからの子どもたちも、親兄弟に対する愛着と集団環境に順応できるような自己概念を持ち、多くの友達とのふれあいを豊かにし、ある目標を持って、できそうでもないことにも挑戦するよう元気にはばたいてもらいたいものです。

のびゆく子ら

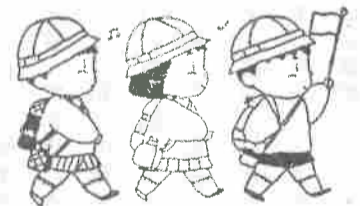
千鳥二丁目 種村 由美子

希望に胸膨らむ四月、新しい出会いが楽しみな時です。近くの児童館、幼稚園で絵本の読み語りをはじめ、たくさんのかわいいお友だちと出会いました。絵本をみつめる子どもたちの輝く瞳、笑顔が大好きです。これから子どもたちの瞳がいつまでもキラキラ輝き続けていられるよう、見守っていったらと思っています。

目標をたて自分に自信を!

千鳥一丁目 吉崎進三

入学式の季節となりました。この時期は新たな気持ちで自分の目標を立てる良い機会です。人間の命は神様から借りたもの。いつかは必ず返さなければなりません。返す時には全部使いきって返そうという気持ちで自分の目標を立てたら、悔いの残らないように一生懸命取り組んで目標を達成すれば自然と自分に自信が付いてきます。



願い

南久が原二丁目 西村 碧

わが家の孫は、よちよち歩きの一才四カ月の男の子。近ごろ、子どもをめぐると話題、恐ろしい凶悪な犯罪に不安と戸惑いを感しながら、孫の成長を楽しみにしている。物心がつきはじめたら、人に迷惑をかける、傷つけない、いたわりと思いやりのある子に育てほしいと願わずにはいられない。遊びを通して、幼児から子どもへ成長してほしい。

言葉で伝えたい

南久が原二丁目 美谷島 邦子

見ず知らずの人から注意されたら、子どもたちは正しいと解っていてもムツとするかもしれない。でも、町の知ってる大人だったら耳を傾けるかもしれないね。わがまちには、君たち子どもが日頃がんばっているのを知っている大人たちがたくさんいるよ。長いものに巻かれないうで、大人も子どもも、思いを言葉に出し合っている町にしたい。

これからの子どもに望むこと

南久が原一丁目 杉崎 武春

私が子どもたちに望むことは、「自立することです。」「自立とはなんでしょう。だれかに言われてやるのではなく、自分で考え、決め、行動することです。つまり、その結果の責任は決めた自分が取るということです。そのために親が子どもに、①責任、②愛すること、③人の役に立つことを教えていく必要があります。あなたはどの三つの子供を子どもに教えることができますか。」



# さんぽしてみませんか

等々力溪谷と六郷用水を巡って

南久が原さくら会

久が原駅より電車に乗り大井町線等々力駅下車、駅前道路を南に割烹ざいもく亭前を過ぎると溪谷の入口。狭い階段を下におりると鬱蒼とした木々に囲まれた自然の清流。川の流れ木々の緑も綺麗に外の騒音から離れた溪谷、谷沢川がここにありませす。多摩川と武蔵野大地の南に位置し国の風致公園に指定されております。

川沿いに約1kmの散策路が四季折々多くの植物、珍しい野鳥のさえずりと水の流れる自然の環境の中に続く。歩くこと数分、頭上に環八道路十数m上の橋桁をとおして車の音を聞きながら不動の滝につく。苔むした岩肌からいく筋かの湧き水が流れる中、大きな滝が流れ落ちております。この滝にうたれて信者が修行し今でも不動の滝の霊場として知られております。湧き水で喉を潤し一休み、途中で横穴古墳をのぞき、最古の昔を偲びつ、階段を上り、広い境内に出ると大きな社が鎮座している、ここが等々力不動堂です。巫女の案内で昇殿参拝手を合せて無病息災を祈る。再び下において小さな公園につく。一時間余の昼食休憩。持参したのり巻弁当を広げおいしく頂く。帰りは六郷用水(丸子川)の川に沿って武蔵工大前を

通り、多摩川台公園に向かって歩く。途中道端の農家の前で無人の野菜売場を見つけ無農薬の胡瓜、茄子や小松菜を一山百円で購入。この新鮮なみやげを腰にぶら下げながらの徒歩の旅は、全員疲れも見せず出発点にもどってめでたく終了。参加者23名

(平川 漢夫)



# わがまちあの人 この人

わがまちの野草研究者

簡典久さん

今回は、鶴の木三丁目にお住まいの簡典久さん(八十一歳)にお話しをうかがいました。簡さんは、大田区主催の自然観察会の講師を第一回目から務め、区の広報誌等でも、簡さんの撮った野草や昆虫の写真が使われています。昨年は、撮りためた約一万枚の写真の中から、区内の野草五百十種の写真をのせた「大田区野草図鑑」を自費出版され、読売新聞の都民版にも紹介されました。この図鑑は、区内で絶滅寸前の種が区内にあることも紹介されていて、我々が



普段は目にも止めないでいる道端の草にも、名前があるということ、気付かせてくれます。また、簡さんは、アマチュア郷土史家として大田区の歴史について、教育委員会発行の文化財集に論文を発表しています。簡さんが、写真を撮り始めたのは、その郷土史の取材で歩いている時に道端の草花に目がいき、ただ歩いているよりも、出歩く時には必ずカメラを持ち目にとまった自然を撮影することにしたところ、一万枚もの写真がたまったということだそう。以前は西蒲田に住んでいたため、鶴の木に越してきた時は野草が多いのがうれしかったそうです。しかし最近開発がすすんで、個人の庭や空き地が少なくなり、野草も減っているそうです。「さんぽみち」でも、鶴の木地区の歴史や、自然に関する記事載せて欲しいと言っておられました。これからの予定は、郷土史関係は大田区の地名についての論文をまとめて本にすること、そして、昆虫の写真が数多くあるので「昆虫と樹木」の図鑑を出すそうです。なお、「大田区野草図鑑」は区内の図書館で見られます。

# リレーエッセイ

鶴の木三丁目 伊集院 雅英

長い月日を、無芸大食で過ごしてきてやっと少しは余裕が持てる間を割いて努力を重ねた時期ようになって、今更ながらに趣味もあつたのですが、生来の不調と言えぬものを持たないで来た人生を恨めしく感じる今日この頃で残念の極みです。身近な人間とす。私の周りには、それこそ趣味に生き、或いは趣味を生かして自らの人生を豊かにしたり、ポランディアとして世の中に役立ったりと有意義な人生を送っている方がたくさん居られるのを知ること思案中です。

# 短歌

鶴の木三丁目 原田 シマ子

路の葎わづかに土をもたげをり  
ひそかなる愛も育くみゆくべし  
早春の光りふくみて梅清し  
たかぶる心今は静もる  
割り切つて生きて行くべし  
春雨に濡れて線路の光り冷たし  
子を持ちて今更思ふ若人の  
今の世に生くる道のせまきを



鶴の木特別出張所管内	
人口	男 10,586名
	女 10,842名
	計 21,422名
世帯数	10,178世帯
平成10年3月1日現在	

お詫び  
「さんぽみち」19号の特集記事「わがまちの防災訓練」で金子富美子さんのお名前が金子富美子となっていました。ご本人並びに関係者の方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。ここに訂正させていただきます。